

# 「阿保村」から

# 「阿保町」へ

市史編さんだより (13)

市の南部に位置する阿保は、かつての初瀬街道、現在の国道165号線、近鉄大阪線が通る交通の要衝です。

阿保の町は、藤堂高虎が伊賀国へ入国した慶長13年(1608)、商売することを許された伊賀国内3カ所の町(上野・名張・阿保)のうちのひとつであることから、それ以前から町場として栄えていたと考えられます。江戸時代には上町・下町に分かれ、伊勢参宮の宿場町として賑わっていました。

明治5年(1872)、阿保町は阿保村と改称、明治初期の行政制度(戸長役場制度)を経て、明治22年(1889)の市制・町村制の実施により、羽根・別府・寺脇・岡田・柏尾とともに「阿保村」となりました。

町村制の施行から約30年経った大正9年(1920)1月16日、当時の阿保村長から「本村ヲ町ト改称ニ関スル件」という議案が提出されました。その議案の中には、

「村ト町トノ名称ニ於テ何等差異アルガ如キ感アリテ發展上支障不尠ヲ以テ今回本村ヲ町ト改称シテ刷新ヲ加ヘ發展ヲ期センカ為メ本按ヲ提出スル所以ナリ」

とあり、村と町ではその名称により印象も異なり、地域の發展上支障を来たしているの、村から町へ改称したい、という趣旨のものでした。また、この議案には理由書が添付され、

村から町への改称を提案するに至った理由が詳しく記されています。

その理由は、①交通の要衝であり、地域の中心地である。②江戸時代の初め頃から「村」と呼ばれていたが明治になってから「町」になった。③「村」と「町」では印象が異なり、商取引に影響を与える。④今後は阿保町と改称することにより發展を期したい、というものです。

この議案は提案と同時に議決され、名賀郡・三重県の参事会を経て国へ申請した後、正式に名称変更することになりました。

「村」から「町」への名称変更の動きから、当時の人々の地域に対する愛着や發展を願う思いが伝わってきます。

本庁総務課市史編さん係 ☎52・4380



▲「阿保町町制施行を祝う様子」伊勢慶旅館所蔵

## 城東中学校竣工式

や、3つめの設置となる武道館、市民に開放できるアトリウムギャラリーや、ソーラーパネルによる太陽光発電などさまざまな特徴があります。

この日、最後に行われた校舎見学では、校長や市の職員が校舎を案内し、出席した人たちは、真新しい校舎の完成に喜びを感じている様子でした。



城東中学校は府中小学校、中瀬小学校、三田小学校を卒業した生徒と上野西小学校と丸柱小学校を卒業した一部の生徒が通学します。

この学校は「時間と空間を自由に使える学校づくり」をテーマにしている、多目的スペースを多く取り入れたり、中庭に水辺の空間を作ったりするなどゆったりとした雰囲気が感じられる学校です。

また、市内で1番大きい体育館

市の花  
ササユリ



市の木  
アカマツ



市の鳥  
キジ



平成21年6月1日 発行/伊賀市 編集/企画振興部広聴広報課  
〒518-8501 伊賀市上野丸之内116番地  
☎22・9999 ㊟22・9917 <http://www.city.iga.lg.jp/>